



学校だより

7月号
横浜市立桜台小学校
令和8年6月30日発行



HPはこちらから

学校と地域の連携・協働で子どもを育てる

校長 中村 真弓

6月は、台風の接近からスタートし、6日には土曜参観を行いました。たくさんの保護者の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。14・15日には6年生が日光修学旅行へ、25・26日には5年生が三浦宿泊体験学習に1泊で行ってきました。6年生も5年生も雨天時の計画での実施となりましたが、思い出に残る経験となったことと思います。また、水泳学習もスタートしています。昨年度より水泳学習時の健康観察をすぐるで送っていただく方法にしています。朝のあわただしい時間帯にご協力いただき、ありがとうございます。7月も安全に留意して水泳学習を行ってまいります。

横浜市では、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人(横浜教育ビジョン 2030)」のもと、第5期横浜市教育基本計画が示されました。その中の「社会全体で子どもを支える教育の推進」という柱に「子どもの学びや体験を充実させ、地域の担い手としての意識を高めるため、学校と社会がつながることで、子ども一人ひとりを守り、地域全体で支えます。」という目標・方向性の施策があります。子どもの「伴走者」となる地域の方々とのつながりとして、「学校運営協議会」や「地域学校協働本部」などの活動があります。活動を通じて学校と地域が連携して学びや体験を充実させ、子どもを支えていくという趣旨の活動です。桜台小学校でも、これまでも「学校運営協議会」「地域学校協働本部」の方々に活動していただいていたましたが、改めて紹介します。

「学校運営協議会」は、保護者代表(PTAより)、地域住民代表(自治会長さんや学校・地域コーディネーター)、学識経験者(中学・高校の校長)で構成されており、学校運営方針やその実現のための教育活動や課題について理解し、解決のために議論をしたり、評価をしたりしていただいています。

「地域学校協働本部」は研修を受けた「地域学校協働活動推進員(学校・地域コーディネーター)」を中心に、保護者や地域の皆さんなどの参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに「学校を核とした地域づくり」を目指して地域と学校の連携・協働を推進していきます。桜台のまちは、地域・保護者の皆さまにこれまでも子どもたちの学びを支えていただいており、今後は、社会の変化に合わせ、活動を10年後も持続可能なものとしていく必要があると考えています。

「地域学校協働活動」と明確にしなくとも、いつも登下校を見守ってくださる地域の学援隊の皆様にはたいへんお世話になってきました。保護者の方の中にも登下校の見守りをしてくださっている方がたくさんいらっしゃいます。これこそが子どもたちを真ん中にして、地域、保護者の皆様、学校が連携して子どもたちを育てているネットワークだと思います。互いに顔が見える関係となり、挨拶や「いつもありがとうございます」の言葉が自然に交わされ、地域全体がずっとつながっていくことを願っています。